

群 教 セ	G10 - 01
	平 29. 265 集
	道徳一中

道徳的価値を主体的に捉えられる生徒の育成

—自分自身の問題として向き合い、考えるための
発問構成の工夫を通して—

特別研修員 新井 千鶴

I 研究テーマ設定の理由

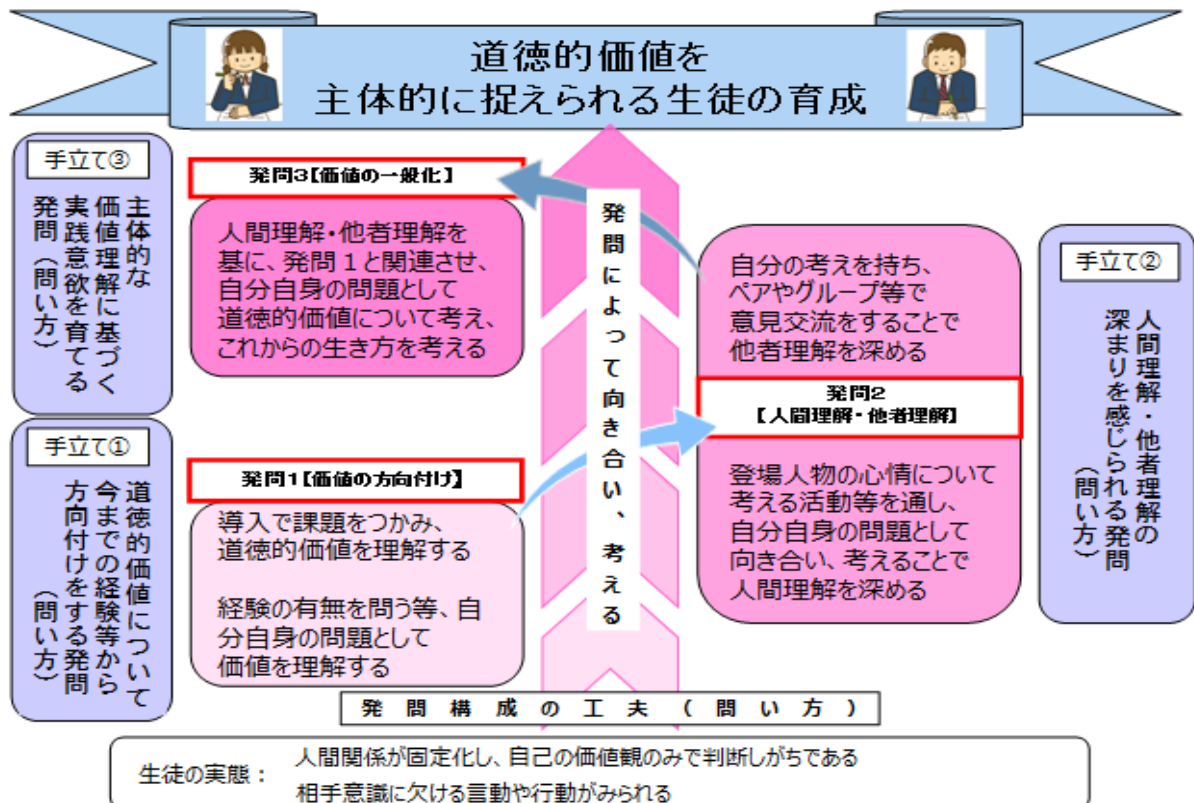
新学習指導要領が告示され、平成31年度から実施されることに伴い、従来の道徳の時間は「特別な教科道徳」となる。この転換の中で、生徒がいじめ問題等の現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性のある力を育成していくため、道徳的価値について自分との関わりで捉え、道徳的判断力や心情、さらに実践意欲と態度を育てていくことが必要とされている。また、群馬県教育委員会の平成29年度学校教育の指針における指導の重点「他者の多様な考え方や感じ方に触れ、自己を深く見つめる学習を工夫し、これからの生き方への思いや願いを深めていくこと」からも、自分自身の問題として向き合い、考える学習が重要であると言える。

所属校3年生の生徒は、人間関係が固定化する傾向にあり、相手の思いに気が付かず、自分の考えにこだわり過ぎて問題の解決に時間がかかることが度々ある。このような実態から、道徳的価値について自分自身の問題として捉え、考えることが必要であると感じた。

そのため本研究では、生徒自身の経験からの道徳的価値の方向付けや、人間理解・他者理解の深まりが感じられるような意見交流活動など、発問構成（問い方）を工夫することにより、道徳的価値について自分自身の問題として向き合い、考えることで、主体的に捉えられる生徒を育成したいとして上記のテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

道徳の授業において、道徳的価値を主体的に捉えるためには、道徳的諸価値について自分自身の問題として向き合い、考えていくことが大切である。そのための発問構成の工夫として、以下の三つの手立てを用いてそれぞれの発問（問い方）を考えた。

手立て①

道徳的価値について、今までの経験等から方向付けをする発問（問い方）

手立て②

人間理解・他者理解の深まりを感じられる発問（問い方）

手立て③

主体的な価値理解に基づく実践意欲を育てる発問（問い方）

・手立て①について

道徳的価値について自分のこととして捉えて向き合い、考えるためには、まず道徳的価値の理解が大切である。そこで、生徒の今までの経験等から道徳的価値の方向付けを行うための発問をする。

・手立て②について

手立て①で方向付けられた道徳的価値について、登場人物の思いや登場人物がなぜそのような行動をしたのかについての発問を通して考えながら、人間理解を深めていく。また、ペアやグループでの意見交流活動などにより他者理解を深めていく。

・手だて③について

手立て①②により深められた道徳的価値について、発問により一般化して自分のこととして捉えさせることにより、主体的に向き合い考えることに結び付けるとともに自己理解も深めていく。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 導入では、道徳的価値の方向付けをするための発問（問い方）として、今までの経験等を問うことにより、自己理解を促すことへつなげることができた。自己理解を促したことで、道徳的価値を主体的に捉えられる振り返りにもつなげることができた。
- 人間理解のために、登場人物の思いについて「キーワード化しながら価値を捉える」ための発問や登場人物の行動について「なぜそのように行動できたのだろうか」という発問（問い方）をしたことで、登場人物の心情に迫ることができ、人間理解を深めることができた。
- 道徳的価値を方向付けた後、人間理解を深めることにより、グループでの意見交流活動が活発に行われ、他者理解の深まりを実感できた。
- 手立て①から③までの発問構成の工夫を通して、道徳的価値について向き合い、考えたことで自分自身の問題として主体的に捉えることができた。

2 課題

- 道徳的価値をより主体的に捉えさせるためには、道徳的価値の方向付け（手立て①）と人間理解のための発問（手立て②）を明確に関連付ける必要がある。
- 手立て②では、人間理解・他者理解の深まりを感じさせるための発問にしたが、グループでの意見交流のみで進めたため、意見の広がりや深さが少なく、他者理解の深まりが十分ではなかったグループがあった。一人一人が道徳的価値に向き合い、深く考えるためには、ペアやグループでの意見交流活動の後に、意図的に学級全体での意見交流を入れる必要があると感じた。

実践例

- 1 主題名 志高く生きる 内容項目A－(4) 希望と勇気、克己と強い意志
資料名 「風に立つライオン」(出典 あかつき「中学生の道徳3」)

2 主題及び本時について

(1) 価値観

本主題は、新学習指導要領の内容項目A「主として自分自身に関する事」の希望と勇気、克己と強い意志「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる事」という価値をねらうものである。中学3年生は、自分の将来について考える時期であり、その実現に向けて努力し続けようという強い意志を持っている。しかし、その夢の実現には、予想しない困難や失敗を伴い、時には大きな決断をしなければならない場面に遭遇してもできず、実現を諦めてしまうこともある。このように自分の目標を達成するためには、困難や失敗を乗り越えるための強い意志が必要となる。そして、自分の理想の実現のためには、志を高く持ち、どんな困難も乗り越え、やり遂げようとする道徳的実践意欲を培うことが必要である。

(2) 生徒観

中学3年生の2学期となり、75%の生徒が「将来、就きたい職業がある」と答え、その実現に向けた進学先を志望している。今までの生活を振り返ると、部活動で苦しい練習を乗り越えた経験や、検定試験に向けて勉強し合格した経験など、困難を克服した経験がある生徒がいる一方で、苦しい練習のため部活動を辞めたり、検定試験の勉強を途中で投げ出してしまったりしたという経験を持つ生徒もいる。

中学校卒業を半年後に控え、それぞれが自分の夢に向かって歩き出す準備を始めているが、その夢の実現には多くの困難があると予想され、多くの生徒は、資格が取れないことや試験に合格できないことなどを心配している。本資料を通じて、困難に遭遇しても簡単に諦めないよう、強い意志を持って行動できるような生徒を育成していきたい。

(3) 資料観

本資料は、幼い頃からの夢の実現のためにアフリカへ行き、医療活動へ身を投じた青年医師が主人公である。日本に残してきたかつての恋人からの手紙を読み、自分が貫いてきた夢の実現への誠実な思いが間違いではなかったことを確認する姿を読み取ることで、希望を持ちながら困難を乗り越え、一步一步やり遂げる事の大切さを学ぶことができる。さらに、主人公の心情を読み取りながら、進路選択の時期を迎えた自分自身と重ねて考えることができる資料である。

また、主人公がアフリカでの医療活動を継続している理由を考えることで、主人公が、強い意志を持ち、困難を乗り越えながらその意志を貫いていることに気付かせる。そのことにより、自分の心の葛藤を押さえることができ、目標を達成、継続していくことの大切さにも気付くことができる。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時では、発問(問い方)の工夫として以下の手立てを取り入れ、発問の構成を考えて実践した。

手立て① 道徳的価値について、今までの経験等から方向付けをする発問(問い方)

今までに困難を乗り越えた経験があるかどうかを問うことで、困難を乗り越えることについて考えていくという方向付けをした。

手立て② 人間理解・他者理解の深まりを感じられる発問(問い方)

主人公の行動の理由をキーワード化して捉えることで、課題が捉えやすくなり、その後の話合いでも、キーワードを基に考えるよう促した。3人組の話合いでは、主人公の行動について考えたことを話し合うことで他者理解の深まりを感じられる発問にした。

手立て③ 主体的な価値理解に基づく実践意欲を育てる発問(問い方)

手立て①や②により深められた道徳的価値により、これからの自分はこうしていこうなど、自分のこととして価値について考えることができる発問にした。

4 授業の実際

〔導入〕

手立て①

道徳的価値について、今までの経験等から方向付けをする発問（問い方）

発問1「夢や目標の実現途中での困難を乗り越えるためにはどうしたらよいのだろうか」

発問1では、多くの生徒が、部活動や検定試験について挙げ、努力が実った経験や実らなかった経験を共有した。困難を乗り越えるために必要なことなどの具体的な内容までは出なかったが、課題意識を持たせる導入になった。

〔価値の理解〕

手立て②-1

人間理解・他者理解の深まりを感じられる発問（問い方）

発問2「『つらくないといえば嘘になるけど幸せです』とは主人公のどのような思いを表しているのか」

まず、主人公の思いに共感しながら考えるために、キーワードを出す（図1）ことにより、主人公の置かれている状況の理解を深めさせた。さらに、各グループが、つらい状況と幸せな状況をキーワード化した後、主人公がどうしてそのような気持ちを表したのかについて3人組で話し合い、つらいことは続いているが、幸せなことが支えになることから夢を追い続けていることに気付く（図2）ことができた。この発問により、困難を乗り越えるためにはどうすれば良いのか考え、価値に迫ることができた。



図1 グループでのまとめ（キーワード）

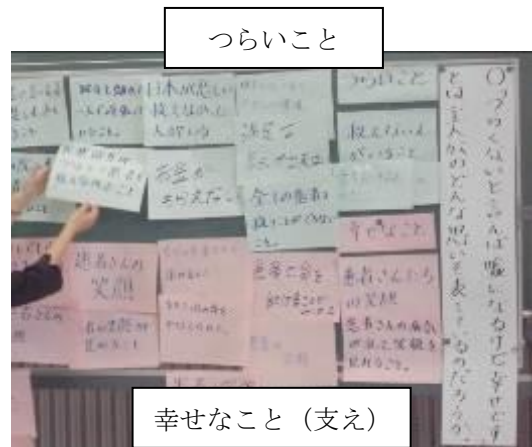


図2 キーワードの整理

手立て②-2

人間理解・他者理解の深まりを感じられる発問（問い方）

発問3「主人公はなぜ、つらい状況下でも困難に立ち向かうことができたのだろうか」

発問2で考えたことを踏まえて、「なぜ～できたのだろうか？」と問い、主人公が困難に立ち向かうことができたことの原因を考えさせた。そして、困難な状況でも自分の意志を支えるものがあれば、立ち向かうことができることに気付かせた。

個人で考えをまとめた（図3）後、さらに、3人組で意見交流（次ページ図4）をし、「そのように考えた根拠は何か？」などお互いに質問し合いながら、主人公の立場を考え、自分なら何を支えに頑張れるだろうかということを考えることにつなげた。



図3 個人での考察（ワークシート記入）

これらの意見交流活動により、道徳的価値に対する他者理解が深まり、自分のこととして価値を捉え、向き合い、考えることにつながった。意見の内容では、「小さい頃からの夢だから立ち向かえたのだと思う」や「夢をかなえるために今までしてきた努力を支えに頑張っているのだと思う」という他者理解の深まりが感じられる発言も見られた。



図4 三人組での話し合いの様子

〔価値の一般化〕

手立て③

主体的な価値理解に基づく実践意欲を育てる発問（問い方）

発問4 「夢や目標の実現途中で、迷いやあきらめを感じた時、それを乗り越える自分になるためにあなたはどのように生活していきたいですか？」

発問4では、発問2と3で考えたことを踏まえて、自分のこととして考える発問にした。生徒一人一人が自分の困難を想像し、どのように乗り越えるかについて考えることができた。つらいことがあっても逃げ出さないよう努力していく決意や、支えてくれる周りの人の思いや願いを考えて、頑張りの源にしていきたいという意見等（以下参照）が出された。

生徒の意見（ワークシートから）

- ・大きな壁を前にしても逃げ出さないような強い心の柱を見付けていくことや、いつも自分を支えてくれる人々に感謝する心を持ちたい。
- ・失敗や困難があっても、その理由を考え前に進み続ける強さを身に付けたい。
- ・今、ライバルがいるので、つらいことも負けたくない気持ちでがんばることができていると思う。
- ・楽をして何かを得ることは無理なので、困難を楽しみ、その中にもやりがいを見つけて努力できる人になりたい。
- ・困難をマイナスと捉えるのではなくプラスに捉えて乗り越える方法を見付けたり、家族や友達に相談したりしながら、支えられていることを励みにしていきたい。

5 考察

この実践を通して、発問構成（問い方）によって、（主に「発問1の価値の方向付け」により）生徒の思考が一定の方向に向かったり、（主に「発問2の人間理解・他者理解」により）多くの考え方に触れたりすることができると分かった。具体的には、発問構成を意識することで道徳の時間の導入から自分自身の問題として向き合い、考える発問で人間理解が深まり、さらに生徒の実態に応じた意見交流活動で、多様な考え方や感じ方を受け入れ、他者理解の深まりへつながった。

今回の授業では、展開前段で主体的な道徳的価値理解をしたことの後、展開後段で「困難を乗り越えられる自分になるためにあなたはどのように生活していきたいか」と発問し、何を支えに困難に立ち向かうかについて、自分のこととして考えることができ、夢の実現のために今まで費やした時間等（例えば勉強時間など）を挙げて、道徳的価値理解の深まりが感じられる生徒もいた。人によって支えとなることは様々で、それぞれの生活環境による違いを考えながら、様々なことを支えにして困難に立ち向かうことができることに気付くことのできた実践であった。また、人は一人で生きているのではなく、必ず周りにいる他の人を意識して生活していることを踏まえ、友達や家族のことについても考えを巡らせることができた。さらに、自分への大きな期待や励ましなどを思い出し、掛けてもらった言葉によってやる気や勇気の出た経験について話す姿も見られた。

このように発問構成を工夫し、手立て①から③の発問をすることにより、道徳的価値に向き合い、考えることができ、自分自身の問題として主体的に捉えることができた実践であると言える。